

デジタル田園都市国家構想交付金
(地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ・デジタル実装タイプ)
【重要業績評価指標(KPI)】の評価詳細

デジタル田園都市国家構想交付金実績評価シート【重要業績評価指標(KPI)】の記入内容は以下のとおりとなっています。

		記入内容
事業名		事業名を記入
交付金タイプ名		交付金のタイプ名を記入
連携自治体名		広域連携事業の場合は連携自治体名を記入
事業の概要・目的		事業の概要・目的を記入
交付金を充当する事業経費(実績額)		交付金を充当する事業経費を記入
事業の概要		個別事業の概要を記入(ある場合のみ)
R4年度歳入予算額(円)		令和4年度事業に係る歳入予算額を記入
R4年度実績額(円)		令和4年度事業が終了し、確定した事業費の実績額を記入
R4年度国費充当額(円)		令和4年度事業へ最終的に充当した国費(本交付金)の金額を記入
事業始期		事業計画期間の開始時期を記入
事業終期		事業計画期間の終了時期を記入
KPI		事業ごとに設定したKPI(重要業績評価指標)を記入(複数ある場合はすべて)
担当部課等		事業を所管する部課等を記入
設定根拠		KPIの設定根拠(費用対効果を計測するのに適している理由等)を記入
従前値		KPIについて、事業開始前の数値を記入
単位		KPIの単位を記入
基準年度		KPI設定の基準年度を記入(原則、事業開始年度の前年度)
目標値	R2	該当する各年度の目標値を記入 ※対前年度比の増加分である点に注意
	R3	
	R4	
	R5	
	R6	
	R7	
	R8	
	合計(目標値)	
	単位	KPIの単位を記入
	目標年度	KPI達成の最終目標年度を記入
実績値	R2	該当する各年度の実績値を記入 ※未確定の場合は、時点がわかるように暫定版を記入 ※対前年度比の増加分である点に注意
	R3	
	R4	
	R5	
	R6	
	R7	
	R8	
	合計	実績値の合計(増加分の合計)を記入
単位	KPIの単位を記入	

KPI進捗評価	<p>以下の基準を参考に、各事業のKPI達成状況に応じて評点を算出し、各KPIの評点平均を基に評価を決定 ※令和4年度の目標値が「0」のKPIは「未評価」とする。</p> <p>○目標値に対する達成度合いに応じた評点(小数点第2位を四捨五入) 目標値を達成・・・10点 目標値の70%以上・・・5点 目標値の50%以上・・・3点 目標値の50%未満・・・0点</p> <p>○各KPIの評点平均(小数点第2位を四捨五入)に基づく評価 A・・・10点 B・・・7点以上10点未満 C・・・5点以上7点未満 D・・・3点以上5点未満 E・・・3点未満</p>																															
R4年度実施内容 (特記事項)	<p>令和4年度の具体的な実施内容を記入し、その内、特記事項等があれば、併せて記入。</p> <p>○特記事項 ・KPIをはじめ事業実施に大きく影響を及ぼした要因・背景等 ・KPIの実績値では確認できない、事業の取組や進捗等のうち特に総合評価に反映すべき成果等</p> <p>※総合評価にプラスの影響を与える内容、マイナスの影響を与える内容、影響を与えない内容を複数記載可能</p>																															
評価	<p>R4年度実施内容(特記事項)の内容を総合評価へどのように反映させるか、担当部課等で判断し、以下の3項目から選択</p> <p>・ア:特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き上げ ・イ:特記事項の記載を考慮し、総合評価は据え置く ・ウ:特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き下げ</p> <p>※特記事項に複数の内容が記載されている場合、総合的に考慮し判断する</p>																															
総合評価	<p>「KPIの進捗評価」を基に、「特記事項」の内容を加味して、事業の総合評価を決定(以下の表を参照)</p> <div style="text-align: center;"> <p>← 高 評価 低</p> <p>S A B C D E F</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">KPIの進捗評価</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">特 評 記 事 項</th> <th>ア</th> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <th>イ</th> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <th>ウ</th> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td>F</td> </tr> </tbody> </table> </div>			KPIの進捗評価					A	B	C	D	E	特 評 記 事 項	ア	S	A	B	C	D	イ	A	B	C	D	E	ウ	B	C	D	E	F
				KPIの進捗評価																												
		A	B	C	D	E																										
特 評 記 事 項	ア	S	A	B	C	D																										
	イ	A	B	C	D	E																										
	ウ	B	C	D	E	F																										
課題	事業について、現時点での課題等を具体的に記入																															
今後の取組(改善目標)	<p>課題を踏まえ、令和5年度以降の取組について記入 ※交付金事業としての事業期間が終了する場合も、今後の事業の展開等について記入</p>																															

令和4年度実績評価シート①【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	持続可能な地域づくりに向けた地域資源マネタイズプロジェクト					交付金タイプ		地方創生推進タイプ		
						連携自治体		つくば市単独		
事業の概要・目的	1. ネットワーク組成: 周辺市街地において、意欲ある者が自らの能力を活かし、地域経済に貢献・チャレンジできる環境を整備するために、周辺市街地に関わる様々なプレイヤーが共通の目的・意識を持ち、「2. チャレンジエリア形成」に向けた業務を実施できるように、リソースを持ち寄る「R8ネットワーク」を組成する。 2. チャレンジエリア形成: 8つの周辺市街地から一部地域を選定の上、その中心部にチャレンジエリアを設定し、個性的な新規事業者の誘致、チャレンジショップ、空き地を活用したマーケット、キッチンカーなどの多様な出店形態を用意し、既存店舗との相乗効果や地域住民との接点を提供するなど、地域経済に参画しやすい環境を整備していく。 3. 稼げる地域づくりの加速化: 地域活性化協議会やコンペ採択者の「稼ぐ力」への意識改革のために、資金調達のノウハウや事業計画策定のためのセミナー・勉強会の開催、個別具体的な相談に対応する伴走型支援を行っていく。また、活性化協議会設立までのプロセスをブラッシュアップし、周辺市街地近隣地域のコミュニティへの波及を図る。 4. 多様な人材の参画: 活性化協議会の持続化のためには、若年層等(学生、子育て世代や女性)といった多様な人材の参画が不可欠であり、それら次世代を担う人材が協議会活動に参加する契機となる「(仮称)地域人材発掘コンテスト」を開催し、受賞者と活性化協議会との継続的な関係性の構築を図る。									
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)チャレンジエリア形成事業 5,715,570円 (2)稼げる地域づくりの加速化事業 4,113,228円 (3)地域づくりへの多様な人材参画促進事業 5,677,025円 (4)チャレンジエリア形成事業 1,393,050円 (5)チャレンジショップ改装費 3,300,000円									
R4年度歳入予算額	10,306,000円	R4年度実績額			20,198,873円	(実績額のうち、国費充当額)		10,099,436円		
事業始期	令和3年4月				事業終期	令和6年3月				
指標①	KPI	ネットワーク組織に関連した新規の事業収入					指標担当部課等		都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	ネットワーク組織を組成し、支援を行った結果として発生するものである。定量的・客観的に分析でき、意欲ある者に対しての目標値としても適している。また、費用対効果を確認する点においても、投資(費用)に対しての成果(事業収入)を明確にすることができる。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 千円	令和2年度	-	1,000	4,000	6,000	-	11,000 千円	令和5年度
	実績値			-	1,360	3,955	0	-	5,315 千円	評点
目標値の達成率			-	136.0%	98.9%	0.0%	-	48.3%		

指標②	KPI	チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	本事業の根幹となるネットワーク組織では、チャレンジショップのソフト面での環境を整備するなど、意欲ある者の支援を行っていくため、実効的な支援を行えたかどうかの定量的な指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 件	令和2年度	-	0	2	2	-	4 件	令和5年度
	実績値			-	0	3	0	-	3 件	評点
目標値の達成率			-	0.0%	150.0%	0.0%	-	75.0%		
指標③	KPI	専門家による自走化の支援件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	ネットワーク組織による支援活動の効果を客観的に捉える指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 件	令和2年度	-	4	2	2	-	8 件	令和5年度
	実績値			-	3	2	0	-	5 件	評点
目標値の達成率			-	75.0%	100.0%	0.0%	-	62.5%		
指標④	KPI	コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課	
	設定根拠	多様な人材の参画によって組織の新陳代謝を促し、持続可能な活動を行っていく体制を整えていく必要があり、組織が新しい活力を取り入れながら活動できているかという指標として適している。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 人	令和2年度	-	0	6	2	-	8 人	令和5年度
	実績値			-	0	47	0	-	47 人	評点
目標値の達成率			-	0.0%	783.3%	0.0%	-	587.5%		

評価の分析	評点の平均値	R4年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	8.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク組織に関連した新規の事業収入については、各活性化協議会の自主事業(マルシェの出店料、フリーペーパーの広告収入)やチャレンジショップの出店により、新たな収入を得るスキームを構築した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、中止になったイベントもあり目標に僅かに及ばなかった。 ・チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数については、内覧会の実施やチラシの配布等により、目標を超える3件の開業を達成した。 	イ:据置き	B
	KPI進捗評価	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による自走化の支援件数については、各活性化協議会の代表者を集めて、専門家による地域振興に関する講演等を行った。 		
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数については、コンテストの内容を見直し、より多くの人材が地域づくり活動に参画できるように、応募者同士でチームを結成し、アイデアの実践に挑戦する方式に変更したことで、目標値を大幅に上回る実績となった。 		
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<p>R8アイデアソンの開催やチャレンジショップの出店により、周辺市街地での地域づくりに多様な人材が参画し、新しい様々な事業を実証することで、周辺市街地の活性化につながった。一方で、それらの事業を持続的な活動にするために、各活性化協議会との関係構築を積極的に図っていく必要がある。</p> <p>※「アイデアソン」とは一般的にアイデア(idea)とマラソン(marathon)を掛け合わせた造語であり、一定の期間内で特定のテーマについてチームごとにアイデアを出し合い、共同作業で問題解決を図る催しとされている。</p>	<p>R8ネットワークを活用した事業間の連携を強化し、さらなる地域活性化を目指す。また、昨年度につくばR8アイデアソンを改良させた企画として「つくばR8シン・アイデアソン」を、また、昨年度実施された事業を継続させるための「継続支援事業」を実施し、地域づくりに参画する人材の呼び込み及び定着を促進していく。</p>		

令和4年度実績評価シート②【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	自転車利用推進による三密を回避したつくば市内及び近隣自治体間との回遊性向上促進事業					交付金タイプ		地方創生推進タイプ			
						連携自治体		つくば市単独			
事業の概要・目的	1. シェアサイクル事業:つくばエクスプレスつくば駅及び研究学園駅を中心とした約2km圏内に20箇所程度のサイクルポートと50台程度の自転車を設置し、スマホアプリで利用可能なシステムを備えたシェアサイクル事業を展開する。特に、バス停の半径500m圏外(≒バスサービスの空白地域)に重点的に配置し、既存の公共交通網を補完する。また、つくば駅周辺の中心市街地における回遊性を向上し、活性化に寄与する。 2. レンタサイクル事業:レンタサイクルを、つくば駅(30台)と、筑波山麓バスターミナル「筑波山口」(18台)に設置し、来訪者へ移動手段として提供し、地域活性化を実現する。 3. 茨城県広域レンタサイクル事業:茨城県、沿線自治体、沿線民間企業等で構成する「つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会」では、乗り捨て可能な広域レンタサイクル事業(令和2年度:つくば市を含む9市11施設、113台)を平成29年度から開始している。つくば市では、この広域レンタサイクルをベースとして、広域サイクルツーリズム事業を立ち上げていくことで周辺市街地の活性化を推進する。 4. HP「つくば市サイクリングガイド」の運営:つくば市のサイクリング情報(コース、休憩施設、飲食店情報等)、自転車整備や修理ができるポイント(自転車店、いばらきサイクルサポートステーション等)や自転車に関するトピック等を総合的に発信することで、自転車利用を促進する。 5. 弱虫ペダルサイクリングチームとの連携に基づく事業:令和3年に連携協定を締結した「弱虫ペダルサイクリングチーム」の意匠活用したバスラッピングをつくば市コミュニティバス「つくバス」に施し、自転車利用の推進と安全利用の啓発活動を行う。										
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)シェアサイクル事業 4,906,000円 (2)レンタサイクル事業 1,593,636円 (3)茨城県広域レンタサイクル事業 830,000円 (4)HP「つくば市サイクリングガイド」の運営 729,190円 (5)弱虫ペダルサイクリングチームとの連携協定に基づく事業 0円										
R4年度歳入予算額	5,093,000円		R4年度実績額		8,058,826円		(実績額のうち、国費充当額)		4,029,413円		
事業始期	令和3年4月				事業終期		令和6年3月				
指標①	KPI		自転車利用者数					指標担当部課等		都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠		この指標を用いることで、移動手段の選択肢の多様化によるつくば市民の自転車利用増加と、つくば霞ヶ浦りんりんロード等観光目的でのつくば市及びその近隣自治体への来訪者数の増加を、総合的かつ直接的に測ることができる。								
	目標値【年度増加分】		従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
			1,259,000 人	令和2年度	-	41,000	45,000	46,000	-	132,000 人	令和5年度
	実績値				-	117,949	184,040	0	-	301,989 人	評点 10
目標値の達成率				-	287.7%	409.0%	0.0%	-	228.8%		

指標②	KPI	シェアサイクル事業稼働率						指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	シェアサイクルの稼働率を算出することで、市内の回遊性向上の程度が具体的に把握できる。また、稼働率は収益とも連動するため将来的な自走の可能性を測ることができる。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 %	令和2年度	-	40	14	20	-	74.0 %	令和5年度
	実績値			-	62.4	54.1	0.0	-	116.5 %	評点
目標値の達成率			-	156.0%	386.7%	0.0%	-	157.5%		
指標③	KPI	レンタサイクル事業稼働率						指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	レンタサイクルの稼働率を算出することで、市内の回遊性向上の程度を把握することができるとともに、シェアサイクル事業との比較を行うことで、レンタサイクル事業のターゲット絞り込みや高付加価値化等への転換を行うことができる。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		23 %	令和2年度	-	4.00	4.00	4.00	-	12.0 %	令和5年度
	実績値			-	0.43	-0.30	0.00	-	0.13 %	評点
目標値の達成率			-	10.8%	-7.5%	0.0%	-	1.08%		
指標④	KPI	HP「つくば市サイクリングガイド」へのアクセス数						指標担当部課等	都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	「サイクリング」をフックにしたつくば市内の散策及びつくば市への来訪の魅力度が向上しているかどうかを測ることができる。HP「つくば市サイクリングガイド」はサーバー運営会社の事業終了に伴いR5.3月をもって閉鎖となるため、つくば市公式HPリニューアルに合わせて「つくばサイクル」関連ページを公開し当該ページへのアクセス数をもって令和5年度のKPIとする。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		102,000 回	令和2年度	-	5,000	7,000	10,000	-	22,000 回	令和5年度
	実績値			-	-792	-18,886	0	-	-19,678 回	評点
目標値の達成率			-	-15.8%	-269.8%	0.0%	-	-89.4%		

評価の分析	評点の平均値	R4年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアサイクル事業においては、サイクルポートを2か所増設し、1か所移設した。リピーターの増加や広報の継続により、事業の周知が進み、目標を大幅に超え前年度比約18万人増の実績となった。 ・レンタサイクル利用者数の目標数未達は、同一エリアでシェアサイクル事業を実施していることから、レンタサイクル利用者の一部がシェアサイクル利用へ転換したことによるものと推測される。 ・HPについては、HPのコンテンツ(Instagramで開催されたフォトコンテスト等)が不足していたため、閲覧数が減少したと推定される。なお、令和4年11月3日に、市民の自転車に対する理解促進及び自転車による地域振興を目的として開催した「PEDAL DAY GO」は別のHPで周知等を行った。 	イ:据置き	C
	KPI進捗評価			
	C			
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市レンタサイクル事業の利用率が低迷している。 ・全年齢層の自転車用ヘルメット着用の全国的な努力義務化に伴い、自転車の安全利用についてより強く推進していく必要がある。 ・HPの閲覧数が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市レンタサイクル事業を周知するためチラシによる広報を行う。 ・「弱虫ペダルサイクリングチーム」の意匠をいかし、つくば市コミュニティバス「つくバス」にラッピングを施すことで、官民協働に基づく自転車利用の推進と安全利用の啓発活動を実現する。 ・HPに自転車イベントの情報を掲載するなど、コンテンツを充実させていく。 		

令和4年度実績評価シート③【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	市民中心のSociety5.0社会推進事業				交付金タイプ	地方創生推進タイプ
					連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	<p>市民中心のSociety5.0社会に向け、科学分野のヒト(研究者)・コト(研究成果)・モノ(研究機関)の集積と、スタートアップが活発であるという本市の強みをいかし、あらゆる未来技術の社会実装を目指す。これを通じて地域課題の解決を図るイノベーション・エコシステムを構築し、新産業・サービスが次々と生まれるまちを実現する。</p> <p>1. 科学技術・イノベーション振興指針の策定: 本指針に市民意見を反映するため、開発事業者と本市が共同で昨年度まで実証実験を重ねてきた未来技術「インターネット投票システム」を、意見収集ツールとしての応用性の検証を兼ねて活用する。</p> <p>2. 地域課題解決型未来技術実証実験支援: 市内大学・研究機関を含む全国から地域課題の解決に繋がる未来技術を公募し、優れた提案を採択。課題解決の可能性を検証するために、実証実験の費用負担、公共施設をはじめとする実証フィールドの提供、市民モニター確保その他の各種支援を行う。</p> <p>3. 未来技術の社会実装に向けた市場・市民向けニーズ調査: 市域で実証した未来技術を市民や市内事業所に試してもらおうホームユーステストにより、その市場性を評価するとともに、未来技術の質の改善・向上を図る。</p> <p>4. 研究成果の商用化支援のための公共調達モデル構築: 公共調達により行政が未来技術の最初の「買い手」となり、地域への導入事例を作ること、市場化を加速させ、販路拡大を促すことが有効であることから、市域で実証した未来技術を素材に公共調達モデル構築のケーススタディを実施する。</p> <p>5 データ利活用支援: Soccity5.0社会の実現に必要なデータ利活用を進めるため、課題解決の可能性を検証した未来技術事業者によるデータプラットフォームの活用を支援する。</p>					
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)地域課題解決型未来技術実証実験支援 5,875,167円</p> <p>(2)市場や市民ニーズ調査支援 1,214,000円</p> <p>(3)研究成果の商用化支援のための公共調達モデル構築 0円</p> <p>(4)データ利活用支援 0円</p>					
R4年度歳入予算額	6,725,000円	R4年度実績額	7,089,167円	(実績額のうち、国費充当額)	3,544,583円	
事業始期	令和3年4月		事業終期	令和6年3月		

指標①	KPI	地域課題解決型未来技術実証実験の支援により社会実装(実用化)に至った件数						指標担当部課等	政策イノベーション部 科学技術戦略課・スタートアップ推進室	
	設定根拠	本事業によって創出された未来技術の社会実装件数というアウトカムを把握するものであり、最先端の製品・サービスが生活にいかされた実績数を定量化したものである。また、本事業の成果として、各要素事業の実施により現れた直接の成果である。実証後すぐに社会実装されるものは少なく、実験における検証結果等の成果をもとにした、改良等の期間を必要とする場合が大いに想定されるため、複数年にわたって計測する必要がある。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		0 件	令和2年度	-	0	2	2	-	4 件	令和5年度
	実績値			-	0	2	0	-	2 件	評点
目標値の達成率			-	0.0%	100.0%	0.0%	-	50.0%		
指標②	KPI	新規創業数						指標担当部課等	政策イノベーション部 科学技術戦略課・スタートアップ推進室	
	設定根拠	新規創業数は、本事業による研究成果等の社会実装の推進の成果として直接的に示す指標であるとともに、定期的集計される値であるため。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	目標年度
		33 件	令和2年度	-	16	17	18	-	51 件	令和5年度
	実績値			-	10	10	0	-	20 件	評点
目標値の達成率			-	62.5%	58.8%	0.0%	-	39.2%		

評価の分析	評点の平均値	R4年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	6.5	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地からの提案15件のうち、専属助産師による妊婦の身体づくりについてオンラインで伴走サポートするサービス等、5件の実証実験を採択及び支援した。 ・実証実験期間が短期的になってしまう課題があったが、事業設計を見直し、実証実験開始を早めることに繋がった。 ・過年度案件のフォローアップ調査を実施(25社中21社からアンケート回答)。改善点、実証実験時にあるとよい支援、規制緩和が必要なことなどの意見を得ることができた。 ・新規創業においては、社会実装トライアルのほか、起業・経営に関する専門的な情報提供・相談対応や意欲醸成のためのイベント・セミナーの実施、コワーキングスペースの提供、エコシステム構築等の支援を行った。 	イ:据置き	C
	KPI進捗評価			
	C			
	課題	今後の取組(改善目標)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内関係部署との連携を強化し、実証実験事業に対する庁内での認知度を向上させ、実証実験の成果を市の課題解決に繋げる必要がある。 ・フォローアップ調査の結果、市のフィールド導入及び他社との連携との回答が約4割、また、規制緩和を伴うとの回答も約4割あり、他自治体との差別化を図る上でも、スマートシティ推進及び規制による制限事項を考慮した実証実験の在り方について検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、庁内関係部署との連携を強化し、各部署の施策における地域課題に対して、実証実験の有益性について協議する機会を持ち、連携の下で実施していく。 ・引き続き、過年度案件のフォローアップ調査を実施し、社会実装化への課題について把握する。また、スマートシティ推進や規制緩和に関連する案件について、先進性や革新性を有する内容であるか、また、各関連法の動向を考慮しつつ、関連部署との連携により社会実装化に向けて取組む。 		

令和4年度実績評価シート④【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	移動の自由と安心安全で自立した生活を支えるSociety 5.0推進事業		交付金タイプ	地方創生推進タイプ
			連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	<p>「都市と郊外の二極化」や「多文化共生の不備」という構造的な問題や、それらから発生する諸課題に対し、先端的な技術や住民の情報リテラシー向上支援を行うことで、生活利便性の向上、高齢化・人口減に対応したまちづくりを行い、「持続可能な地域社会の実現」を目指すものである</p> <p>1.デジタルデバイド解消調査事業 小田地区及び宝陽台地区の高齢者等に対するスマートフォン等の機器の貸与、スマホアドバイザーによる使用方法の指導等を行い、スマートフォン等の機器の使用可能者を増加させるとともに、特に効果的なデバイスの種類、対象となる年代、地域特性の情報を収集する。</p> <p>2.つくば市ポータルアプリ開発・改修 行政情報等の配信や行政サービス、先端的サービスを集約し、そこから申請や利用をワンストップでアクセス可能とするインターフェースとしてつくば市ポータルアプリを整備する。</p> <p>3.パーソナルモビリティシェアリング 自動走行を有するパーソナルモビリティを地区内シェアリングサービスとして導入し、自宅からバス停までの「ラストワンマイル」の移動の利便性を向上させる。</p> <p>4.移動スーパー等ロケーションシステム 買い物における負担が大きい郊外において、移動スーパーの現在地、到着時間、店舗在庫等の情報をスマートフォンで確認可能にし、買い物をスムーズに行うことができるようにする。また、医療機関、薬局、移動スーパーの連携により、遠隔診療後に処方薬を移動スーパーで受け取ることができるようにし、利便性を向上させる。</p> <p>5.荷物配送ロボット等による買い物の利便性向上 自動配送ロボットを活用し、希望のタイミングで荷物を受け取ることができるようにする。また、自動追従型荷物配送ロボットの活用により、荷物を持つことなく自宅まで変えることができる環境を整備する。</p>			
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)デジタルデバイド解消調査事業 37,232,030円 (2)(仮称)つくば市ポータルアプリ開発・改修 18,420,600円</p>			
R4年度歳入予算額	50,217,000円	R4年度実績額	55,652,630円	(実績額のうち、国費充当額) 27,826,315円
事業始期	令和4年4月		事業終期	令和9年3月

指標①	KPI	移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本指標を測定することにより、本市の問題である都市と郊外の二極化が是正されたことを把握することができる。なお、本指標は、事業の進捗や展開状況(アプリの普及、デジタルデバイドの解消等の状況)によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		26 人/月	令和3年度	1	1	1	1	1	5 人/月	令和8年度
	実績値			2	0	0	0	0	2 人/月	評点
目標値の達成率			200.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%		
指標②	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリのインストール数(つくば市の人口に対する割合)						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、各先端的サービスを利用する上で、それらの入口となるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものであるため、本指標を測定することにより、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		0 人(%)	令和3年度	20,000	15,000	5,000	5,000	5,000	50,000 人(%)	令和8年度
	実績値			13,000	0	0	0	0	13,000 人(%)	評点
目標値の達成率			65.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.0%		
指標③	KPI	スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	本事業により、教室自体の開催実績を測定することに加え、大学生と高齢者の世代間交流によるコミュニティの活性化について測定できるものである。なお、スマートフォン教室は、回数・年数を経るごとに内容や方式を更新していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。								
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
		17 人	令和3年度	16	16	16	16	16	80 人	令和8年度
	実績値			6	0	0	0	0	6 人	評点
目標値の達成率			37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%		

評価の分析	評点の平均値	R4年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・移動スーパーの見える化は、当初予定の2ルートから3ルートに増えたため、1ルート分の対応が年度内に間に合わず運用開始を後ろ倒しとしたが、移動スーパー運航地域にてつくば市ポータルアプリ「つくスマ」への機能追加に伴う周知・広報活動を行ったことにより、移動スーパーの一か所当たりの月ごと平均利用者数は増加した。 ・つくば市ポータルアプリ「つくスマ」へ追加した機能の運用開始が予定より遅延したためダウンロード数が伸びなかった。 ・デジタルデバイド解消調査事業の参加者が78名と伸び悩んだため、スマホ教室へ派遣する大学生人数が減少した。 	イ:据置き	D
	KPI進捗評価			
	D			
課題	今後の取組(改善目標)			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度途中で新たに開始された移動スーパー(つくば学園の森エリア)の対応を行った上で、移動スーパーの位置情報表示の本リリースを早期に実施する必要がある。 ・ポータルアプリに対する庁内職員の意識向上と積極的利用を促進する必要がある。 ・デジタルデバイド解消調査事業の参加者を増やすための検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動スーパー(つくば学園の森エリア)が開始されたことから新規ルートの対応を行った上で、リリースを予定している。 ・ポータルアプリを市民に浸透させるためには、職員側でも積極的に活用する必要があるため、職員向けに説明会を実施したり、関係課等へ具体的な活用を働きかける。 ・デジタルデバイド解消調査事業の対象エリアへ事業の詳細を手厚く周知するとともに、積極的に参加してもらえるように働きかける工夫をする。特に、元々スマホを保有していない人には、本事業の必要性を丁寧に説明する。 			

令和4年度実績評価シート⑤【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	旧筑波東中学校への自転車拠点及びジオパーク中核拠点整備			交付金タイプ	地方創生拠点整備タイプ
				連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	<p>旧筑波東中学校のリノベーション工事を実施し、自転車拠点施設及びジオパーク中核拠点施設を整備する。つくば市が公的施設として運営することで、市街地の機能が失われつつあるという課題を初め各種の課題を解決するとともに、旧筑波町エリアを中心とした地域振興を図り、ひいては近隣自治体を含めた広域での地域振興を目指す。</p> <p>①自転車拠点施設 つくば霞ヶ浦りんりんロード沿いに自転車拠点を整備することで、サイクリストの利便性向上と共に、サイクリストが筑波町エリアを通過点とせず足止め、消費活動を行うきっかけを作る。また、レンタサイクル事業を活用し、サイクリング用自転車を所有していないファミリー層等を筑波山周辺の飲食店や観光スポット等へ誘導する。</p> <p>②ジオパーク中核拠点施設 展示物やツアー等のプログラムを通して地域資源の価値を広め、地域の魅力向上を図るとともに、地域の方々や子供たちがその価値や魅力を知ること、地域に誇りを持ち、住み続け、活動したいという気持ち(シビックプライド)の醸成に繋げる。また、筑波山地域ジオパークエリア内の物産品の販売及びPRの実施を予定しており、定期的な物産販売イベントや物産品を絡めたツアーを開催することで、産業振興を図る。</p> <p>③駐車場 駐車場にパーク&サイクルライド機能を持たせ、サイクリストによる周辺施設の駐車場占拠を解消するとともに、校舎内に休憩・シャワー機能を持たせ、つくば市がサイクリングの先着点となるよう誘導することで旧筑波町エリアへの新たな人流を作り出す。</p> <p>④BMXレーシングコース グラウンドにBMXレーシング用コースを整備し、練習用や大会開催用に有料で貸し出すことにより、練習時であれば長時間(宿泊を伴う)の練習が多いスポーツのため飲食や宿泊等の地域振興につながり、大会時であれば選手や関係者、観客等により筑波山周辺の宿泊施設への多量の需要が発生すると想定されるため、地域経済への大きな貢献につながる。</p>				
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設整備 228,044,694円 (2)BMXレーシングコース造成 99,066,000円 (3)駐車場整備工事 23,519,331円</p>				
R4年度歳入予算額	192,602,500円	R4年度実績額	350,630,025円	(実績額のうち、国費充当額)	175,315,012円
事業始期	令和4年4月		事業終期	令和5年3月	

指標①	KPI	(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設利用者数						指標担当部課等		・経済部ジオパーク室 ・都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	本事業の目的は旧筑波東中学校に集客を図り、観光等周辺産業への経済波及効果をもたらす拠点として整備することである。施設の利用者数は、旧筑波東中学校の集客数を示す指標となるものであり、定期的に集計される値である。									
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度	
		0 人	令和3年度	0	2,350	4,750	2,550	2,350	12,000 人	令和8年度	
	実績値			0	0	0	0	0	0 人	評点	未評価
目標値の達成率			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
指標②	KPI	筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績(ガイド実施延べ人)						指標担当部課等		・経済部ジオパーク室 ・都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	本事業の目的の一つとして人材育成があり、認定ジオガイドの活動実績は人材育成の効果を定量的に測る指標となる。また、活動実績にはジオパーク拠点施設で開催するツアーやイベントの開催数を含み、間接的に周辺地域での経済活動の指標とすることが可能である。									
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度	
		0 人	令和3年度	0	140	68	104	104	416 人	令和8年度	
	実績値			0	0	0	0	0	0 人	評点	未評価
目標値の達成率			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
指標③	KPI	BMXレーシングコース利用料収入						指標担当部課等		・経済部ジオパーク室 ・都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
	設定根拠	経済効果を直接的に測るものであり、客観的な指標としてふさわしい。									
	目標値【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度	
		0 円	令和3年度	0	1,650,000	3,300,000	2,475,000	825,000	8,250,000 円	令和8年度	
	実績値			0	0	0	0	0	0 円	評点	未評価
目標値の達成率			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

評価の分析	評点の平均値	R4年度実施内容(特記事項)		総合評価
	未評価	<p>旧筑波東中学校のリノベーション工事を実施し、建物内装の改修及び駐車場整備を完了した。</p> <p>【ジオパーク中核拠点施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階の展示スペースに設置する体験型の展示物や映像展示、実験装置等を検討し、地域の魅力を楽しく学べる環境整備を進めた。 ・事務スペースとして、2階に事務室、会議室等を整備した。 <p>【自転車拠点施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な大会の誘致が可能な国際自転車競技連合の大会開催基準に適合したBMXレーシングコースの造成工事を完了した。 ・サイクリストの利便性向上のため、校舎内に更衣室、シャワー室などを整備した。 	特記事項評価	未評価
	KPI進捗評価		工:未評価	
	未評価			
	課題	今後の取組(改善目標)		
	令和5年度中に施設全体の整備を完了し、供用を開始する必要がある。	<p>令和5年度中に供用を開始するため、施設の整備を進める。</p> <p>【ジオパーク中核拠点施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示物の制作を進め、展示スペースの整備を完了する。 ・地域の魅力をより広く発信するため、展示を活用した教育及び観光プログラムを開発する。 <p>【自転車拠点施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BMXレーシングコースの安全対策のための追加工事を行うとともに、安全に運用するための基準を整備していく。 ・地域での消費活動のきっかけとなりうるレンタサイクル事業の活用方法を検討していく。 		

令和4年度実績評価シート⑥【デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ) 重要業績評価指標(KPI)】

事業名	(仮称)つくば市ポータルアプリ整備事業			
	交付金タイプ	デジタル実装タイプ		
	連携自治体	つくば市単独		
事業の概要・目的	<p>行政情報等の配信やスマートシティサービスのインターフェースとして、令和4年4月にリリースした「(仮称)つくば市ポータルアプリ」に以下の機能を追加し、更なる住民の生活利便性や、市役所業務の効率化を図る。</p> <p>④デジタルID・市民レポート機能・機械翻訳機能の向上 オンライン上で厳密な本人確認を実現するデジタルIDを導入することで、よりの確かな情報提供や、アプリ上での行政関係手続等が可能となる。住民からのレポート機能を追加することにより、住民と行政のコミュニケーションの円滑化や、市役所業務の効率化が可能となる。 機械翻訳エンジンの入替を行うことで、より精度の高い多言語配信が可能となり、外国人の住民に対してより正確に情報提供を行うことができる。</p> <p>⑤インターネット投票・アンケートシステム 住民向け調査の回答や各サービスの評価を収集できる機能を整備する。 また、将来的にインターネット投票を実現することで、移動が困難な人・忙しい人でも投票可能となり、今まで取りこぼしていた可能性があった民意を反映した政策の実施につながる。</p> <p>⑥移動スーパーロケーションシステム・図書館カード機能 移動スーパーロケーション機能を整備することで、移動スーパーの位置情報や到着予定時間が見える化され、特に利用率が高い高齢者の買い物利便性向上につながる。 図書館カード機能を整備することにより、アプリ上で図書館カードが表示可能となり、利用者のカード忘れや紛失が減少するだけでなく、図書館受付業務の効率化を図ることができ、利用者の利便性向上に資する。</p>			
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)市民レポート機能整備 2,200,000円 (2)デジタルID機能整備 8,668,000円 (3)インターネット投票システム構築 21,395,000円 (4)機械翻訳機能整備(翻訳エンジンの入替) 836,000円 (5)移動スーパーロケーション機能整備 1,023,000円 (6)図書館カード機能整備 3,058,000円			
R4年度歳入予算額	50,217,000円	R4年度実績額	37,180,000円	(実績額のうち、国費充当額) 18,590,000円
事業始期	令和4年4月		事業終期	令和5年3月

指標①	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの延バダウンロード数(つくば市の人口に対する割合)						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取るに加え、他事業で実施する先進的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。本指標を測定することにより、本アプリの利用状況を把握できるだけでなく、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。※2026年度までに20%を目指す。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 人(%)	令和3年度	-	20,000	35,000	40,000	-	95,000 人(%)	令和6年度
	実績値			-	13,000	0	0	-	13,000 人(%)	評点 3
目標値の達成率			-	65.0%	0.0%	0.0%	-	13.7%		
指標②	KPI	アンケートシステムにより収集した意見を政策に反映させた件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	アンケートシステムの整備により、住民からの意見を収集することが容易になり、それらを政策に反映させることにより、多様な住民ニーズに対応した政策の実施につながる。本指標を測定することで、アプリの整備を起点とした多様なニーズへの対応状況を把握でき、住民生活の改善状況も把握することができる。 また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件/年	令和3年度	-	5	5	5	-	15 件/年	令和6年度
	実績値			-	0	0	0	-	0 件/年	評点 0
目標値の達成率			-	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.0%		

指標③	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの利用者満足度						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	利用者からの意見という客観的な数値であり、本事業によってもたらされる直接的な数値である。本指標により、多様なニーズを持つ住民へ十分な情報提供ができていないか、アプリを利用することで住民の利便性が向上しているかといった効果を測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。 ※アプリを利用して「満足」と回答した人の割合								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 %	令和3年度	-	70	75	80	-	225 %	令和6年度
	実績値			-	0	0	0	-	0 %	評点 0
目標値の達成率			-	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.0%		
指標④	KPI	市民レポートの件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	市民からのレポート件数という定量的な数値であり、本事業で整備されるシステムのため直接的な数値である。本指標によって、特に道路の維持・管理など、本来市職員が見回って点検を行っていたものが、住民の目でも行われるようになり、業務の省力化について測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 件/年	令和3年度	-	200	525	800	-	1,525 件/年	令和6年度
	実績値			-	0	0	0	-	0 件/年	評点 0
目標値の達成率			-	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.0%		

評価の分析	評点の平均値	令和4年度実施内容(特記事項)		特記事項評価	総合評価
	0.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータルアプリへ追加した機能の運用開始が予定より遅延したためダウンロード数が伸びなかった。 ・アプリにアンケート機能は実装したが、運用開始は令和5年度となったため、具体的なアンケートを実施できなかった。なおメール等で頂いた意見としては、便利等の好意的な意見が大半だった。 ・アプリに市民レポート機能は実装したが、運用開始は2023年度からのため、具体的なレポートが得られていない。(テスト環境では動作を確認済み) ・図書館カードは令和5年3月に提供開始し、2週間で300程度のダウンロードと大幅に伸びた。 		イ:据置き	E
	KPI進捗評価				
	E				
課題		今後の取組(改善目標)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ポータルアプリへ追加した市民レポート、市民アンケート機能の具体的な活用策(市民レポートは電話、メール等での対応と比較し、業務効率化が図れるため、業務従事者視点からの活用を検討する必要がある) 		<ul style="list-style-type: none"> ・既存業務と比較し、業務効率化につなげつつ、市民の利便性向上となるように具体的な活用を検討する。 ・市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報、周知を行う。 ・多様性を配慮し、翻訳言語を追加する。(ベトナム語、インドネシア語等) 			